

令和5年3月1日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫

令和4年度第2回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「令和4年度第2回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長:山崎芙美夫委員 副委員長:美入昌男委員

(1)外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会 評議員
石田 高幸	学校法人石田学園理事長(欠席) 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 理事長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部 幼児教育学科 准教授

(五十音順)

(2)学校側委員

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任(授業のため欠席)
真貝 浩二	同 事務員
相川 怜美	同 教務部

2 教育課程編成委員会開催状況

- (1) 日時: 令和4年11月15日(火) 午前11時20分~12時00分
- (2) 会場: 越谷保育専門学校 201教室
- (3) 参加委員: 上記外部委員4名出席、1名欠席。
学校側委員7名、1名欠席。

3 委員会次第

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)委員長選出

(4)協議

ア 令和4年度教育課程編成について

イ 授業見学の感想及ぶ意見について

ウ その他

(5)その他 なし

閉会

4 第2回委員会議事要録

別紙のとおり

令和4年度越谷保育専門学校 第2回教育課程編成委員会議事要録

令和4年11月15日

- 1 委員の紹介 省略
- 2 校長挨拶 省略
- 3 議長選出 山崎校長

4 協議事項

(1) 令和4年度教育課程編成について

(学校) 令和4年度教育課程編成について資料に基づいて説明された。

(委員) 特に意見はなかった。

(2) 授業見学の感想及ぶ意見について

(委員) 保育を前提とした授業なので、楽しいですが、音楽では、もっともっと広げて曲を選んだりしてもよいかと思いました。お弁当作りでは、もちろん学生たちの経験に基づくものだと思いますが、子どもの好みと、カロリー計算と盛り付けと、班の特色が、出るような取り組みがあると良いと感じました。

実習指導では、書くこと、記録することを大切にしていることはよくわかる。それぞれの生徒さんたちが実習終わったあとの実習プログラムと実際の実習経験とその時の内容が授業の中に反映できれば、現場の自分の経験と合わせると楽しい授業になるように感じた。

(委員) 栄養では、学生時代の経験が蘇ってきた。やはり実践をすることは大切。

大いに実践を積んでほしい。授業でやった調理が趣味になり、調理実習が得意で、人間関係が広がったりする経験につながると思う。実習に入るうえで、園にもっていく重要な書類で、真剣に取り組んでいる様子であった。先生が添削しているものを記入している指導が、良かった。音楽は、子どもたちの身近な周りにあるもので、いつもと違う音で子どもは興味を示してくれるので、授業の雰囲気良かった。グループでも全員が積極的に参加していた。

(委員) 興味深い授業を見学させていただいてありがとうございました。

栄養は、学生の生活経験の差が如実に表れていた。家ではやらないであろう活動なので、貴重な経験になっている。この時期に相応しい栄養バランス、旬の食べ物を取り入れる、この時期に望ましい食事を体験的に身につける授業内容になると、より良い。

実習指導は、私自身もずっとかかわってきている。最初の実習に向けて、時間をかけて丁寧に指導されているということ、書き方、手続きを事細かに指導していく必要がある。なぜこれが必要なのか、というのは実習を終えてから気が付く部分が出てくると思う。だから必要の気づきが重要。今の段階だと見本通り、言われた通りだと思うが、実習前、実習後の結びつきがこれからあると良い。

音楽表現は、子どもは視覚から得られる情報が少なく五感をフルに使う。大人は意識しないと五感をつかえない。子ども世界を具体的に知っていくうえで非常に大事な経験だと感じられた。

- (学校)それぞれの授業で工夫がみられるし、学生たちの経験がよく現れていた。
- (委員)以前は児童養護施設での実習において、食事を用意しなければならない実習もあった。意外な学生が、活躍することもあった。生活力を求められる。トータルで考える力も必要だと感じる。
- (委員)今年は実習生がくる時期が遅い。夏の実習は半分くらい。例年は年間70、80名来る。どの園にするか、学生とすれば1年生の時に決めているか、2年生のときに行かなければいけないと思いながら決めていくのか。
- (学校)1年次からここに行く決めていた学生は少ない。いないわけではない。1年生から就職説明会も行っている。最終的に本校の学生が決めるのは実習園が多い。令和3年度卒業生は3割実習園に就職している。何名かは母園に就職することが、モチベーションになっていた。
- 何名か、実習終えてきてくださいね、と声をかけてもらっていたにも関わらず、今年度は、採用はありませんと、言われることもあった。長く勤められる園が増えてきた。幼稚園の勤務自体が改良されてきている。
- (委員)経営する側からすると、遅くまで働いている時代はあった。昔と結局は変わらないことになっている。先輩が帰らないと帰れない等。
- (委員)基本的にはローテーションで組んでいる。15、30分でも残業したら残業代も、きちんと出している。保育が終われば帰れるようになっている。

5 その他

- (1) 今後の予定
- (2) 事務連絡等